

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">西洋史学 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文1回生 文学部英米1回生 文学部文財1回生 人間人社1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">小林 典子</p>				
<p>授業テーマ</p> <p>近代的社会システムのルーツを考える</p>						
<p>授業の概要と目標</p> <p>現代社会は、かつてヨーロッパが生みだした近代社会システムの遺産の上に築かれています。「ヨーロッパ近代」は、わたしたちの生活に、自由と豊かさという恵みをもたらし、日本人にとっては遠いあこがれの対象でありつづけています。けれども同時にそれは環境破壊など地球規模の問題をかかえこんできていることも確かです。21世紀の冒頭にたつ今、ますます「ヨーロッパ近代」の意味とその価値が問われることでしょう。ヨーロッパの歴史の流れを、とくに近代の三大現象（ルネサンス、産業革命、フランス革命）に焦点をあてて概観し、理解を深めます。</p>						
<p>評価方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">出席と授業への参加意欲や小レポート</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">60%</td> </tr> </table>			出席と授業への参加意欲や小レポート	40%	レポート	60%
出席と授業への参加意欲や小レポート	40%					
レポート	60%					
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料配布</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>				
<p>参考書</p> <p>&lt;ビジュアル版&gt; 『ヨーロッパの革命 二重革命の時代 —フランス革命と産業革命—』</p>	<p>著者</p> <p>遅塚忠躬</p>	<p>出版社</p> <p>講談社</p>				
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開講にあたって：授業プログラムとオリエンテーション 現代社会とヨーロッパ ～なぜヨーロッパ史をまなぶのか？～</li> <li>2.3 西洋史の対象と方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「西洋」とはなにか</li> <li>② 「西洋」をどう見るか</li> </ol> </li> <li>4 新しい西洋史：フランス現代『アナール』学派の試み（心性史、文化史、感性の歴史）</li> <li>5 ヨーロッパの理想：偉大なるギリシャ・ローマ 地中海文明</li> <li>6 ヨーロッパの誕生期：ケルト森の文化とローマ石の文化の出会い</li> <li>7 ヨーロッパの宗教：キリスト教の誕生と導入</li> <li>8 近代の夜明けとしてのルネサンス</li> <li>9 ルネサンス概念：ヴァザーリ、ミシュレ、ブルクハルト以後</li> <li>10 イタリア・ルネサンスの開花</li> <li>11 北方ルネサンスの開花</li> <li>12” 万能の人” レオナルド・ダ・ヴィンチ</li> <li>13 宗教革命とルネサンスのたそがれ</li> <li>14,15 まとめ</li> </ol>						